

「気もちだけは今のままで」

北中生を見ていて「素敵だなあ」と思う姿の一つに、止まってくれた運転手に会釈をしながら横断歩道を渡る姿や、渡り切った後に振り向いて深々と礼をする姿があります。中学校ではそのことを指導していませんので、小学校か保護者の指導で生まれた姿でしょうね。素晴らしい力を身に付けさせて中学校に送ってくださったと私は感謝しています。

「横断歩道前で止まると、北中の子たちが急いで渡って、ちゃんと振り返って礼をしてくれませう。男子も女子もしてくれませう。このことをどうしても伝えたくて……。」

昨夜参加した会合の折にも、ある女性が私の元にわざわざ足を運び、うれしそうにこう話してくださいました。地域においても皆さんが日々このような姿を見せているのだとわかり、私はますますうれしくなりました。

横断しようとしている歩行者の前で車を止めるのは運転手の義務ですが、止まってあげたくなるのは歩行者のこういう感謝の意思表示があるからです。逆に、止まってくれる優しさあるから、歩行者は感謝したくなるのです。

多くの歩行者や車が行き交う都会ではこういうことはありません。「歩行者優先だから渡るのだ」という権利と、「歩行者がいるから止まるのだ」という義務が交差するだけです。止まってあげたくなるようなほのぼのとした雰囲気は全くありません。運転していても、殺伐（さつぱつ）としたものを感じてしまいます。

「都道府県魅力度ランキング2020」で岐阜県は、四十七都道府県中第四十二位とのこと。確かに、自然、名所旧跡、グルメや名物などにおいては、岐阜県を上回る都道府県はたくさんあることでしょう。しかし、卑屈になる必要はないと思いません。人のよさ、優しさ、律儀さ、譲り合いといったよさでは、岐阜県は決して負けてはいけません。もちろん、それは県全体の魅力にはなっていないでしょうが、県民性にはそれが濃くも薄くも染みついていると私は思います。

生徒の皆さんは、将来一度は岐阜県を飛び出して活躍することでしょう。その時にできた仲間には、当然のごとく平然と横断歩道を渡るかもしれません。しかし、岐阜県出身、いや、瑞浪市出身の君たちは、気もちだけは今のまままでいてほしいと願っています。止まってくれた運転手のことを考えて、少し急ぎ足で渡るように努めたり、アイコンタクトを取って軽く会釈したりして、感謝の意を表すことができる大人になってください。

そして、次は君たちが、未来の子どもたちにそのことを伝えてください。それが瑞浪市や岐阜県の魅力として有名になってくれたら最高です！

（十二月二十二日 記）